

岩手日報

夕刊
新岩手社
盛岡市内北61
電話代番03131番
創刊1961

自衛隊、車両含め 五百人出動

宮古に指揮所
岩手県宮古市に自衛隊の指揮所が設けられ、自衛隊の車両を含め五百人出動した。指揮所は、宮古市役所の三階に設けられ、自衛隊の車両は、宮古市役所の前庭に駐車した。自衛隊の出動は、二十七日午後三時頃から開始された。自衛隊の出動は、二十七日午後三時頃から開始された。自衛隊の出動は、二十七日午後三時頃から開始された。

七四二世帯を焼失

田老鉦山住宅は全滅

二十九日午後から宮古市、下閉伊郡、久慈市の県北沿岸に延焼した山林火災は台風の余波の低気圧による平均風速十級、最大瞬間風速三十級内外の強風にあおられて猛火と化し、山間部から海岸の部落をつきつき焼き、三十日午前一時すぎから風が弱まるとともに下火となったが、下閉伊郡田老町ラサ工業田老鉦山住宅を全滅させたのをはじめ、七百四十二世帯と小中校四校を焼失、死者一人、負傷者三十三人を出した。(三十日午後二時現在県警本部調べ) 三十日明け方から出動した自衛隊員と消防団の活躍で、この火災への延焼のおそれはなくなった。県は災害救助隊本部を設けて被災者の救援に乗り出し、毛布、寝具、日用品を手配するとともに応急仮設住宅の建造などの対策を急いでいる。損害はラサ工業関係の十三億、民家四億をふくむ三十億を越える見込み。山火事と強風による被害状況の概略。

猛火の被害甚大

県北沿岸の惨状



強風にあおられ燃え広がる宮古岩船地内の山林 一松岡宮古支局長撮影



死者一、負傷三三

死者一、負傷三三

死者一人、負傷者三十三人を出した。死者は、宮古市で発生した。負傷者は、宮古市、下閉伊郡、久慈市で発生した。死者は、宮古市で発生した。負傷者は、宮古市、下閉伊郡、久慈市で発生した。死者は、宮古市で発生した。負傷者は、宮古市、下閉伊郡、久慈市で発生した。

八戸市で一千世帯が被災

五千人が被災 五時間燃え鎮火

二十九日夜十一時四十分ごろ、八戸市白銀大沢片平の清水水産加工場付近から出火、おきから強風注意報下二十級の強風にあおられ、火は海岸の奥道に沿って二手に分かれて較港方面へ燃え広がった。地元消防車をはじめ、隣接町消防団の消防車四十五台が必死の消火に当たったが、たまたまの交通路である奥道が火に包まれたため、消防車が活躍できず、五時間余も燃えつづき、約七百世帯を焼き、三十日午前五時すぎようやく鎮火した。青森県の調べによると、この火災で二千世帯約五千人が焼け出され、損害は二十五億円に達するといわれる。



毛藤勤治

毛藤勤治

毛藤勤治

毛藤勤治

毛藤勤治

毛藤勤治

フエーン現象から

フエーン現象から

原因 乾燥した強風吹く

フエーン現象から

原因 乾燥した強風吹く

フエーン現象から

原因 乾燥した強風吹く

フエーン現象から

原因 乾燥した強風吹く

最大風速33

最大風速33

最大瞬間風速33級を記録した。これは、二十九日午後三時から三十日午前一時までの間に記録された。これは、二十九日午後三時から三十日午前一時までの間に記録された。

お祈り

お祈り

被災者の安全と復興を祈る。被災者の安全と復興を祈る。被災者の安全と復興を祈る。被災者の安全と復興を祈る。

県警の捜査

県警の捜査

火災の原因を調査中。火災の原因を調査中。火災の原因を調査中。火災の原因を調査中。